

過疎化が進む富山県朝日町で、簡易水道の改修費用を捻出するための小水力発電事業が始まる。ユニークなのは、発電所の所有・運営に信託を活用して事業の継続性を保つことだ。全国27の信託会社のうち、首都圏と大阪府以外に本社を持つ唯一の企業、すみれ地域信託(岐阜県高山市)が参画する。井上正社長に狙いを聞いた。

——朝日町を創業の地とする建設会社の深松組(仙台市)と組み、同町笹川地区の小水力発電に関わります。

「深松組の深松努社長とは我が社の祖業である建設会社を通じた旧知の仲。河川の笹川を使った小水力発電が可能と分かり、自身のルーツがある笹川地区の水道改修費用3億円を賄いたいと話があった」

「当初は私財を投げ打つても事業をしたいという話だったが、寄付するには額が大きすぎる。また、深松組が発電施設を所有すれば、同社の経

すみれ地域信託社長

井上正氏に聞く



すみれ地域信託は首都圏と大阪府以外に本社を持つ唯一の信託会社(岐阜県高山市、井上社長)

# 小水力発電、信託使い継続

営が破綻した場合に、発電所が競売にかけられるなどして水道改修に力ネが回らない可能性もある。そこで信託の活用が有効だという話になった

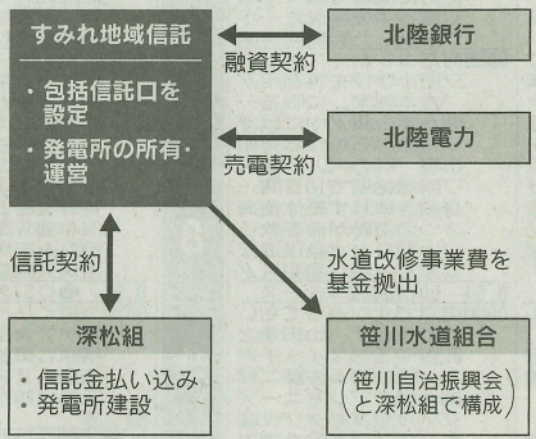
——信託はなぜ有効ですか。

「倒産隔離機能があるからだ。財産は委託者の名義ではなく受託者の名義になる。今回は深松組が委託者で、すみれ地域信託が作る包括信託口が受託者となるため、委託者の経営状況には左右されない」

「すみれ信託の信託口は深松組の信託金1億6

# 水道改修費を捻出

売電収入で水道の改修費用をまかなう(事業のスキームの概要)



700万円と、北陸銀行の融資6億円を得る。6月に着工する小水力発電所は2023年に北陸電力への売電を始め、年間4000万円程度の収入を得る。約20年で回収できる見通しだ

——16年に信託に参入しました。現状は。

「中部を中心に約20件の手をかけ、予定案件も含めて50億円の預かり資産がある。小水力発電や商業施設のほか、森林信託も準備中だ。首都圏の信託会社はレバレッジを高めるために活用される場合が多く、短期で成果を

「エネルギー関連のほか、空き家の公営住宅化、公共の公園や体育館の運営もあり得る。自治体は地域のインフラなどを維持するために、自ら稼ぐ力を持つことが必要だ。

「エネルギー関連のほか、空き家の公営住宅化、公共の公園や体育館の運営もあり得る。自治体は地域のインフラなどを維持するために、自ら稼ぐ力を持つことが必要だ。

——地方ではどう信託を生かせますか。

「すみれ信託の信託口は深松組の信託金1億6

「聞き手は国司田拓児」



安全作業・起工式を開催

新豊は約31.5口の深さで、長さ約115mのトンネルを掘削する予定です。

深松組本社(仙台)は、富山朝日電力地区で小水力発電事業を推進する。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。

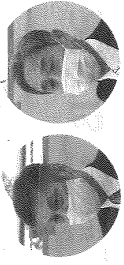
# 小水力発電収入で水道施設更新

## 深松組 朝日町でプロジェクト着手



井上代表取締役

朝日町は、小水力発電収入で水道施設更新を行う。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。



竹内代表理事

朝日町は、小水力発電収入で水道施設更新を行う。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。

## 水道 産業 新 聞

2021年(令和3年)5月20日(木曜日)

深松組本社(仙台)は、富山朝日電力地区で小水力発電事業を推進する。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。

朝日町は、小水力発電収入で水道施設更新を行う。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。

朝日町は、小水力発電収入で水道施設更新を行う。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。

朝日町は、小水力発電収入で水道施設更新を行う。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。

朝日町は、小水力発電収入で水道施設更新を行う。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。

朝日町は、小水力発電収入で水道施設更新を行う。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。

朝日町は、小水力発電収入で水道施設更新を行う。同地区に小水力発電所を建設し、電力を供給し、地域の活性化を図る。また、地域の活性化を図る。